

令和二年度 入学試験（一般 第三回）問題（国語）

【1～5】に答えなさい。

そこへ行つたことはたしかなのに、ある細部、たとえば土地の名を忘れてしまったために、どこ、と正確にいうことことができず、まるで夢で見ただけのような土地がある。私がそこをおとされたのは、イタリア中部、ウンブリア地方の県庁所在地ペルージャに、ひと夏滞在したときのことだつた。

* □ やピサのあるトスカーナ地方のすぐとなりなのに、土地の表情にしても、文化の歴史にしても、何百年ものあいだ耕されつくしたトスカーナからは想像もつかないほど □ (ア) とした風景が、ウンブリア地方の山ひだには隠されている。中世そのままの姿、といつても塔や城壁やカテドラルの中世ではなくて、山羊や羊と暮らしていた遊牧民の中世が、ふいに目のまえに現れることがある。

ある日曜日、その夏ペルージャの大学にいた外国人仲間が、マイクロ・バスを借りてこの地方の北辺の町ノルチャまで遠出しようということになり、美術史の若い研究者が案内をひきうけてくれた。ノルチャは、西洋の修道院制度の開祖とよばれる聖ベネディクトウスの生地で、□ (イ) なペルージャからいくつか山を越えていくのだと聞いた。その町自体はなんということないが、イタリア人でもめつたに行かない山のむこうだと聞いて興味をそられた。

途中、いくつかの町、いくつかのカテーテラルを見て、もうすぐノルチャに着くという地点で、急なくねくね坂をバスは登つていった。あたりの景色がすこしずつ変っていく。雲が出て、全てを焦がしつくすウンブリアの八月の太陽が光を失いはじめ、霧が視界をさえぎった。なにか暖かい衣類を持ってきて下さい、寒いかもせませんからといわれて用意してきたショールやセーターをバッグから出す。

これが、最後の休憩地です、と案内者が告げてほどなく、バスは淋しい峠のふもとで停止した。海拔はどれくらいなのだろう。足もとは赤みがかった茶色の土で、いま登ってきたばかりのくねくね坂は霧のなかに沈んでいる。吹きつける冷たい風に首を □ (a) ながら、一行はさそわれるまま、峠の石造りの小屋をめざして一〇〇メートルほどの坂を駆け登つた。

小屋はバーと呼ばれるイタリア式の立ち飲みカフェだったが、人里はなれているので、日用品や食料品もあつかっている。五、六軒、自然石を漆喰で固めただけのおなじような住居があるなかで、その小屋はいちばん高いところに離れてあつた。なかに入ると、たばこの煙が暗い電灯の下にうすまいていて、むつと匂つた。片隅のカウンターには、数人の日焼けした男が寄りかかって、黙つてワインを飲んでいる。農夫のようにも見えたが、こんな荒地のいつたいどこを耕すのか。どうして、こんなに黙りこくつて酒を飲んでいるのか。

あとで教えられたのだが、あの寡黙な男たちは羊飼いだった。夏場だけ、平地の地主の羊をあずかつて山に登り、群れと共に草を追つて、秋が深まると羊を連れて平地に降りる。羊と番犬だけが相手の山暮らしだから、ほとんど人間とは口をきかない。山を降りると、ザンボーニャという革袋の笛を吹いて、村や町で □ (b) を受けて暮らす。そして、夏が来ると、こうして山に帰つてくる。

こまかい雨が吹きつける時をあとにして、私たちはもういちど、バスにむかつて山を駆け降りた。ふりかえると、霧の流れるむこうに石造りの小屋がぼつんと残されている。自分が死んだとき、こんな景色のなかにひとり立てるかもしれない。ふと、そんな気がした。そこで待つていると、だれかが迎えに来てくれる。

目的のノルチャは聞いたとおりの平凡な町だったが、途中、立ち寄つただけの、霧の流れる峠は忘れられない。心に残る荒れた風景のなかに、ときどき帰つて住んでみるのも、わるくない。

（須賀敦子『霧のむこうに住みたい』）

【1】 空欄ア(イ)に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 1 2】

- | | | | | | | |
|---|---|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1 | ア | ①殺伐 | ②荒涼 | ③荒漠 | ④寂寥 | ⑤閑散 |
| 2 | イ | ①豪華 | ②繁忙 | ③華美 | ④絢爛 | ⑤繁華 |

【2】 傍線部「首を」に続く(a)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 3】

- 3 ①ねじり ②ちぢめ ③ひねり ④すくめ ⑤まるめ

【3】 傍線部「を受けて」の前に置く(b)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 4】

- 4 ①施し ②慰め ③持成し ④憐み ⑤労い

【4】 空欄＊に該当する都市名を、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 5】

- 5 ①ミラノ ②ローマ ③ナポリ
④フィレンツェ ⑤ボローニヤ

【5】 筆者は波線部で、読者に何を伝えたかったのか。筆者の思いとしてふさわしいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 6】

- 6 ①人生の悩みや苦しみを、こんな霧のなかに全て隠してしまえたらいいのに、という思い。
②最初の目的地ではないのに、こんな土地に巡り合えた幸せを忘れてはいけない、という思い。
③住みにくそうだが、本当の心の穏やかさを与えてくれるのは実はこんな土地では、という思い。
④本当に大切なことは、気づかないだけで案外身近にあるのかもしれない、という思い。
⑤この地に暮らす人々は、これからもずっとこの霧と共に生きていくのだろう、という思い。

二次の問【6】～【10】の傍線部の漢字として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 【6】年末からのインフルエンザの流行は、じょじょに収束しつつある。【解答欄は問】**7**
①除々 ②序々 ③徐々 ④叙々 ⑤抒々
- 【7】今回の彼女の要求ばかりは、いやおう無しに受け入れざるを得ない。【解答欄は問】**8**
①否央 ②否追 ③否負 ④否応 ⑤否往
- 【8】そろそろ、君の本領をはっきしててもいい頃だ。【解答欄は問】**9**
①発揮 ②発起 ③発機 ④発紀 ⑤発氣
- 【9】彼の仕事ぶりでは、出世など、とてもおぼつか無い。【解答欄は問】**10**
①覚塚 ②覚付 ③覚着 ④覚就 ⑤覚束
- 【10】過去五年のデータを基に、来年度のしひょうを作成する。【解答欄は問】**11**
①資標 ②指標 ③試標 ④示標 ⑤史標
- 【11】一目□然【解答欄は問】**12**
①両 ②瞭 ③了 ④量 ⑤領
- 【12】難攻不□【解答欄は問】**13**
①絡 ②樂 ③洛 ④落 ⑤酩
- 【13】□磋琢磨【解答欄は問】**14**
①説 ②節 ③接 ④折 ⑤切
- 【14】面目□如【解答欄は問】**15**
①約 ②役 ③躍 ④訛 ⑤厄
- 【15】臨□應変【解答欄は問】**16**
①機 ②氣 ③期 ④起 ⑤危

三次の問【11】～【15】の四字熟語の空欄に入れる語として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

四 次の文章を読んで、後の問【16】～【20】に答えなさい。

春になると、時どき思い出す光景がある。母に連れられて小学校に入学した日のことである。

新しい着物を着せられ、帯の前には折りたたんだ手拭いをさげ、いい匂いがする新しい□*の鞄を肩からさげて、宙を踏むようなはずむ気分で、丘に沿う道を歩いて行つたことを思い出す。

この記憶と□①、同じ道を母とたつた二人で歩いている光景もうかんで来る。入学式の日と違つて、道の前後はしんかんとして人影がなく、ただ日の光だけが明るいのは、私が遅刻しているからである。私はときどき立ちどまって泣き、母はこわい顔をして、そういう私の後からついて来た。

親は勉強しろとは言わず、私の子供時代は□①遊びほうだいだつたが、母は学校を休むことだけは、がんとして許さなかつた。風邪で熱が出たぐらいでは、休ませてもらえなかつた。母のその態度には、どこか□**を言わせないというところがあつて、私は学校があまり好きでもなかつたのに、小学校の六年間を無欠席で通した。

そのときも、きっと私がどこかぐあいが悪く、学校に行きたがらないのを、母がひきずるようにして送つて采たというのであつたろう。

さて、私の記憶で母の顔が見えはじめるのは、大体そのころからである。それより小さいころの記憶にも母は出て来るが、顔は見えて来ない。

ある日私は、道ばたの庚申塚の柵の中に入れられて、道の反対側で畑を耕している母を眺めていた。塚石のまわりを歩き回るのにも倦き、柵の中の虫を追つかけたり、草花をむしったりするのにも倦きて、私はぐずついていたようにも思う。日射しが耐えがたいほど暑かつたのもおぼえているから、季節は夏だったかも知れない。そのうち、誰か村のひとが来て、私に声をかけ、道に立つて母と話はじめた。

たつたそれだけの記憶だが、小さいころの記憶をさがしてみると、それが母と一緒に最初の記憶のように思われる。多分、二、三歳のころではなかつただろうか。大人になつてからみると、その時高いと思つてみたその柵は、□②大人の膝ぐらいまでしかなかつたのだから。

また五歳ごろのことかと思うが、やはり母と一緒に、今度は県道の向うにある、遠い畑の方に行つた日のことをおぼえている。その畑は広く、私はよその家の畑にまで入りこんであちこちと走り回つたあげく、すっかり退屈してしまつたが、このとき母がどんなふうにして働いていたかは記憶がない。

印象がセンメイなのは、その日の帰り道のことである。鍔をかついた母が前を行き、そのうしろからついて行きながら、私はわあわあ泣いている。野道は家がある村はずれまでまつすぐのびていて、行手に日が沈むところだつた。見わたすかぎり、野に金色の光が満ちていた。光は正面から来て、その中で母の姿が黒く動いていた。

おかしいのは私が泣いた理由で、私は歩くのにくたびれたのでもなく、母に叱られて泣いたのでもなかつた。野を満たしている夕日の光を眺めているうちに、突然に涙がこみあげて來たのである。

私がそのとき感じていたのが、□***とか、人の世とかいうもののさびしさだったなどと言つたら、この文竇をお読みになるひとの中には、笑い出される方もあるに違ひない。私も苦笑せずにいられないが、そのときの感じといふものは、あとでカイシャクをつけ加えたものでもなく、またそのほかに私が泣く理由がなかつたことも確かなのである。

そのとき母が何か言つたかどうかはおぼえていない。黙黙と歩いている影絵のようなうしろ姿がみえるだけで、やはり母の顔は見えて来ない。

□①子供は普通、いくつぐらいから親の顔を記憶にきざみつけるようになるのだろうか。私の場合はとくに遅かったのだろうか。記したように、私は働く母にいつもべつたりついて歩いていたようである。私にもっとも愛情を傾けたに違ひないそのころの母の顔を、少しもおぼえていないということは、申しわけないようでもあり、またもどかしい氣もする。

しかしその時期の母と子というものは、子の側から言えば、そういう識別を必要としないほどのほとんど動物

的な勘のようなもので結ばれているのかも知れないという気もする。そして親の顔を、明瞭に識別しはじめるころから、子は少しずつ親に別れる道を歩むのだろうか。影絵のように不明瞭でいながら、そのころの母が驚くほど身近にいたことは、疑い得ないのである。

(藤沢周平『母の顔』)

【16】傍線部ⒶⒷの漢字の正しい読みを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 【解答欄は問17】
Ⓐ ①かのえしんづか
Ⓑ ①くわ
②こうもうづか
②かま
③かのえもうづか
③すき
④こうしんづか
④なた
⑤こうさるづか
⑤のみ

【17】空欄Ⓐ～Ⓑに該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問19】
Ⓐ ①絡まって
Ⓑ ①むろん
②纏まって
②いわば
③連なつて
③むしろ
④重なつて
④しばし
⑤関わつて
⑤かなり

- 【18】二重傍線部ⒶⒷの漢字として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。
Ⓐ ①とにかく
Ⓑ ①やつぱり
②たまたま
②なにしろ
③たとえば
③いつたい
④そもそも
④このさい
⑤せいぜい
⑤さしづめ

【19】空欄＊・＊・＊・＊・＊に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 【解答欄は問23】
Ⓐ ①解借
Ⓑ ①解釈
②快釈
②快借
③回錯
③回釈
④鮮明
④快借
⑤仙明
⑤解釈

【20】筆者は波線部で、読者に何を伝えたかったのか。五十字で述べなさい。【解答欄は記述解答用紙問28】

- 【21】
Ⓐ ①泉州
Ⓑ ①解釈
②宣明
②快釈
③專明
③回錯
④鮮明
④快借
⑤仙明
⑤解釈
- 【22】
Ⓐ ①サージ
Ⓑ ①ムリ
②リネン
②ウム
③ウール
③ダダ
④ニット
④グズ
⑤ズック
⑤ズル
- 【23】
Ⓐ ①森羅万象
Ⓑ ①千变万化
②天地自然
③天地自然
- 【24】
Ⓐ ①天衣无缝
Ⓑ ②万物流転
③万物流転

- 【25】
Ⓐ ①サーチ
Ⓑ ①ムリ
②リネン
②ウム
③ウール
③ダダ
④ニット
④グズ
⑤ズック
⑤ズル
- 【26】
Ⓐ ①ムリ
Ⓑ ①グズ
②ズル
- 【27】
Ⓐ ①森羅万象
Ⓑ ②万物流転
③万物流転

【28】記述解答用紙へ